

平成28（2016）年度『学内留学』（SGH課題研究基礎力養成講座）第1回実施報告

北野高校 SGH 委員長 M.K

5年目を迎える北野高校オリジナル『学内留学』が始まりました。平成24年度に年3回、3講座（教育学、経営学、法学）でスタート。平成26年度に心理学を加え、4講座で年4回実施。平成28年度、天文学、環境学を加え年4回、6講座となりました。受講生も初年度48名（1年23名、2年25名）から今年度168名に増加。SGHに指定されてからは、2年次に課題研究のプレゼンを英語でするための基礎力を築いてもらいたいという意図で、SGH基礎力養成講座と副題を付けました。そのせいか受講生の大半を1年生が占めています（昨年度は1年121名、2年8名、今年度は1年162名、2年6名）。現在では、25年来の姉妹校であるケントウッド高校（シアトル研修）に加え、ハワイ大学マノア校およびプナハウス（ハワイ研修）、シンガポール国立大学（シンガポール研修）、建国高級中学および第一女子高級中学（台湾研修）への海外派遣も実施していますが、経済的やその他の理由で参加できない生徒も少なくないはず、それなら海外を学内へ引っ張りこんでくればよいのではというのが『学内留学』の発想です。平成28年度も第1回を終えました。オープンキャンパスに参加していた多くの中学生、保護者が参観に訪れても自然体で、50分の授業を5コマとも全部英語で行われているのに、笑い声が絶えないのは企画者としては大きな喜びを感じています。それぞれの講座を体験した生徒に、講座内容と感想とを書いてもらいました。



教育学担当 ピーター先生



法学担当 ダレン先生



ビジネス学担当 ランス先生



心理学担当 クレイグ先生



天文学担当 ジョッシュ先生



環境学担当 ノエル先生

A 講座 Education Course（教育学講座）by Mr.Peter Vande Veire

講座は、1コマ目自己紹介、2コマ目重要語彙の確認、3～5コマ目講義という流れで進みました。1コマ目は英語で自分の名前の由来を説明するというもので、新鮮で面白かったです。2コマ目は講義で使われる単語の意味を推測するというもので、ほとんどわからなかったです（笑）。

昼休みを挟んで3コマ目からは講義です。もちろんオールイングリッシュです。普段の授業にもネイティブの先生による授業はありますが、あまり難しい話はしないので理解できます。でも、教育学という難しそうな話を、ただでさえリスニングが得意ではない僕が、どれくらい理解できるのか心配でした。そう思いつつ、いざ講義が始まってみると、先生がわかりやすい単語と発音で説明をしてくれたおかげで、あまり苦しむことなく話の内容を理解することができました。メモを取りながら講義を聴くので、ところどころ聞き逃すところがあったのですが、重要なところの書かれたスライドがあったので大丈夫でした。また、ひととおりの講義のあと周りの人と確認しあう時間があり、理解を深めることができました。講義では VAK という学習方法の分類について学んだのですが、残りの時間はさまざまな学習方法を講義を元に VAK に分類しました。その中で粘土を使う時間があり、とても久しぶりで楽しかったです。

講義を受けて、自分が普段受けている授業でどんな学習方法が使われているのか気になりました。それを調べてくるという課題が出されたので、（授業に差し支えがない程度に）分類するという目線でも授業を受けてみたいと思いました。また、もっと話がよくわかるように英語力をあげ、うまくメモを取れるようにならないといけないと感じました。（1年3組 K.T）

B 講座 Law Course (法学講座) by Darren Larson

1 時間目は、自分の名前の由来や名前の漢字の意味を発表しました。自分の名前について英語で発表するのはとても難しかったです。他の人の英語を聞き、刺激を受けることができました。

2 時間目は、「法律とは何か?なぜ法律が必要なのか?」というテーマのもとで皆で意見を出し合いました。例えば、一つ目の問いには「してはならないことだけでなくしなければならないこともある物」といった答えがあり、二つ目の問いには「ルール化することで人々を快適にする」という答えが出たりなど、自分にはない視点を持っている人がいて、とても興味深かったです。

3 時間目は、「法の世界」と「正当防衛」について、先生が話したことを聞いてそれをメモする、というトレーニングを行いました。初めは、自分の未知の分野について英語で話されることに対する不安がありましたが、先生が分かりやすくレクチャーしてくれたので、しっかりと理解することができました。

4 時間目は、「主な罰」について、3時間目と同様にリスニングのトレーニングを行いました。例えば、家の中で謹慎、といった自分の知らない罰もあり、とても意外でした。

5 時間目は、実際にカナダで起こった安楽死に関する事件について考察しました。

不治の病に侵されている少女が、親に「死にたい」と言い、父親が少女を殺してしまったという事件です。この父親が有罪か無罪かを考えました。教室の中でも意見が割れて、とても白熱した討論になりました。それを英語ですること、自分の英語力がまだまだであることがわかりました。自分の興味がある法律のことについて、オールイングリッシュで行うことで、英語と法律の両方について学ぶことができたことがとても良かったです。(1年3組 M.R)

C 講座 Business Course (ビジネス学講座) by Mr. Lance Domotor

内容

- ① スピーチ (自分の名前の由来について) 単語の確認
- ② 企業に必要な事柄
- ③ 企業をとりまく環境
- ④ スピーチの書き方 発表の仕方 (cue card)
- ⑤ スピーチ (自分の選んだ製品について)

感想

僕はビジネス学の学内留学を体験して三つのことを感じました。

1)ビジネス学の楽しさ

最初、僕はビジネス学は難しそう、堅苦しそうという印象を持っていました。しかし、スマートフォンや、アパレル企業に着目して、ビジネスについて考えることができ、ビジネス学は、面白いというイメージを持ってました。

2)英語をより身近なものに感じた

今までの英語の授業では、英語を習うために、英語を使うということを経験してきました。今回の学内留学では、自分の考えや予想を伝えるために英語を使い、ビジネスについての話を聞くために英語を聞き取るということをし、僕にとってとても新鮮な体験になりました。そして、英語を身近なものに感じました。

3)外国語でコミュニケーションをとることの難しさ

時々、先生の言っていることがわからないということがありました。僕はリスニングのテストと同じ要領で大体の文脈から何を言っているのかをつかもうとしたのですが、その後、先生が何を言いたいのか分からなくなりました。このことから、外国語を聞き取れなかった場合はもちろん、普段の授業でも、分からないことはすぐに聞くことが大切だと感じました。

この学内留学を通して上のような新たな発見を得ることができました。次回も楽しみです。(1年5組 M.K)

D 講座 Psychology Course (心理学講座) by Craig Boobyer

ランチタイムが 11 時 30 分前後とかなり早い(といっても北野も負けないくらい早い)、45 分 × 5 時間のアメリカ型時間割で、私はオールイングリッシュの授業を体験した。これまで経験したことのないような英語の嵐だったが、先生の発音はとてもはっきりしていて、また単語同士を聞き取りやすいようにつなげてくださったので、まったく気後れすることなく授業を楽しめた。1 日目ということもあって、授業の前半は「授業の受け方」がメインだった。レクチャーを受ける時の要点のまとめ方や、効率のいいメモの仕方など、先生の大学時代の教訓を踏まえて「技」を教えていただいた。基本的なことだが、人の話を聞くときに不可欠な技であると思う。学内留学だけでなく、今後の学生生活や社会人になってからでも活用できるようにしたい。

後半に入り、楽しみにしていた心理学の授業を体験した。心理学とは何か?から入り、心理学の学問上の分類や私たちの日常生活とのかかわりについて教わった。心理学のような哲学的な分野は日本語でも表現しにくい、英語となるとなおさらだった。時々「What is the meaning of this word?」と聞かれるもちんぷんかんぷん(今回は非常に多くの新出単語と出会った)。それでも少しずつ単語を消化していき、環境が私たちにもたらす影響やスーパーマーケットでの応用について議論しているあいだに授業は終了した。

内容は盛りだくさんだったが、本当にあっという間の 5 時間だった。まるで学内で留学(学内留学ですね)しているかのようで、むこうの授業スタイルを実感できた気がした。今回習ったこと(難しい単語の数々も含めて)をしっかりと復習して、早くも待ちきれない次回にのぞみたい。(1年6組 F.I)

E 講座 Astronomy Course (天文学講座) by Mr. Josh Glaser

今回の学内留学プロジェクトでは、講師の方の教え方が上手く、集中して積極的に講義を受ける事ができました。1 限目の自己紹介では、英訳にとまどっても、待ってそして補佐してくれました。2 限目では、天文学用語の確認と、大学流のノートの作り方を教わり、3 限目と 4 限目では天体の詳しい特徴やロケットの構造などを教わりました。いずれの講義も映像とともに行われ、一部英語の説明が分からなかったところも、分かりやすく理解することができ、授業についていけなくなることはありませんでした。5 限目では、次回の講義のための課題を渡され、それについてグループを作り話し合いました。また、休み時間に質問に行くと、喜んで答えてくれ、こちらの意欲も高まりました。

そして、私は講義を有意義に受けられた理由は、教え方の他にオールイングリッシュの講義がとても刺激的だったことがあげられると思います。それは、国際化が進んだ日本でも、高校生の段階から長時間にわたって英語に触れる機会があまりないからかもしれません。そのため、触れられる機会がありながらも参加しないのは、とてももったいないことだと思います。北野高校の学内留学プロジェクトでなくても、このような機会を見つけた方は、自信を持って、ぜひ参加してみてください。(1年7組 M.T)

F 講座 Environmantal Science Course (環境学講座) by Mr. Noel Slattery

The five periods I had on the first day were all very different and I thought they were all great! During the first period, we introduced ourselves both in groups and in front of the classroom by talking about our names, and it made me realize the importance of kanji in Japanese names because it's the kanji that can make names have so many meanings. In the second period, we had a lecture on note taking skills and why we should take notes. I wasn't able to put much of these skills into practice yet, but I'm sure that they will help me in the near future. The two periods after lunch were used for the case study. Since I was in the Environmental Science course, I studied about the water cycle, such as its mechanisms and the vocabulary that comes with it. I had already known about most of this material beforehand, but the class itself was fun because the teacher's explanation was very clear and interesting. Finally, for the fifth period, we had a chance to present to the group we were in or to the whole class about what we had just learned about the water cycle, and we studied about presentations skills throughout this activity. Although I didn't have a chance to present in front of the class that day, it was a good experience to hear other people's presentations and see what was good or bad about them.

Overall, I thought that this "Gakunai-ryugaku" program was a great experience. It was a long time since I had last spent a big part of the day in English like this. I hope that I can learn a lot from Gakunai-ryugaku and improve with my communication skills in English and also be able to learn more about environmental science itself as well. I look forward to the next session in October!

(1年6組 E.R)